

社会教育学科 カリキュラムマップ(2025年入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会教育学)の学位を授与します。 ①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する(意欲・態度) ②人間や社会に関わる現代的課題について理解をすすめ、社会の中の多様な学びに目を向けることができる(意欲・態度・思考) ③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている(知識) ④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる(知識・技術・行動) ⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる(創造・行動)										
科 目 名		授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
生涯学習概論1		講義	1	2	生涯学習に関する基本的な知識を概説する。 生涯学習の歴史的系譜を概観し、また、生涯学習社会の現状について理解する。	・生涯学習に関する基本的な知識を得ること で、この領域に興味をもつ。 ・生涯学習の歴史と現状について理解し、簡単な説明ができるようになる。		◎			
生涯学習概論2		講義	1	2	生涯学習に関する基本的な知識を概説する。 同時に、生涯学習論の諸領域を概観することで、さらなる学習の基盤をつくる。	・生涯学習に関する基本的な知識を得ること で、この領域に興味をもつ。 ・生涯学習論の諸領域について理解し、簡単な説明ができるようになる。		◎			
教育学概論1		講義	1・2・3・4	2	「教育」という領域が学術的に探究すべきものであることを示しながら、教育に関する基本的な知識を紹介し、教育学の諸領域を概説する。	・教育という領域について、学術的な視点から自分なりに考えることができるようになる。 ・教育に関する基本的な知識を理解することで、さまざまな教育現象について背景をふまえて論じることができるようになる。		◎			
社会教育基礎演習1		演習	1	2	・社会教育学および社会教育実践について概観し、社会教育学科のカリキュラムの目標と編成について理解する。 ・社会教育学科で能動的・主体的に学んでいくための基礎的なスキルをみがく。 ・社会教育学科における学習習慣の形成を支援する。 ・学科教員との交流、学科学生どうしの交流を深め、相互の学び合いについて体感的に経験する場とする。	・社会教育学科を基盤とする基礎的な人間関係ができる。 ・学科における学習習慣を形成する。 ・学科で学んでいくために必要な学習スキルがどのようなものかを知る。 ・社会教育学科における学習について見通しがもてるようになる。	◎				
社会教育基礎演習2		演習	1	2	・「社会教育基礎演習1」に引き続き、社会教育学科で能動的・主体的に学んでいくための基礎的なスキルをみがく。 ・具体的には、「臨地文化施設実習」で得ていく現場経験の振り返りとその記録化、プレゼンテーションやディスカッションの基礎的なスキルの向上を図る演習に取り組む。	・現場経験を踏まえながら、社会教育実践における「学び」について自らの考えを持ち、それを表現できるようになる。 ・現場経験とその振り返りを通じて、社会教育学科における自らの学びの見通しをより具体的なものにする。	◎				
生涯学習支援演習1		演習	2	2	生涯学習支援論で得られる知識をベースに、学習支援の技法の実践に触れる	・生涯学習支援の技法の実践を知る。 ・演習形式で具体的な技法を用いた学習支援に習熟する。		◎			
生涯学習支援演習2		演習	2	2	人権、環境、まちづくりなどの「現代的課題」に関する学びの機会を想定し、学びの形態と学習支援の実践について考える。	・現代的課題をテーマにした学びを自分たちでも実践できるようになる。 ・現代的課題にまつわる学習支援のポイントについて具体的に把握する。		◎			
生涯学習支援論1		講義	2	2	学習者の多様な特性に応じた学習支援に必要な知識・技能の習得を目的として、生涯学習の理念や構造、学習理論、効果的な学習支援の方法、学習プログラムの編成、参加型学習の実践とファシリテーション技法等について概説する。それらを踏まえて、具体的な学習プログラムを構想・計画する演習にも取り組む。	・現代社会における生涯学習の意義とその支援をめぐる課題について理解し、説明することができるようになる。 ・学習者の特性や学習理論等を踏まえ、効果的な学習支援の方法について考え、提案することができる。また、そこでまた、そこで求められる学習支援者の役割について自らの考えを説明できるようになる。		◎			
生涯学習支援論2		講義	2	2	生涯学習支援に関する専門的技術を涵養する。	生涯学習の支援に関する専門的技術を身につける。		◎			
社会教育経営論1		講義	3	2	社会教育の展開をふまえ、現代において必要とされる社会教育経営の視点や考え方について概説する。	・歴史的展開等を踏まえ、社会教育の特質をつかむ。 ・社会の多様化と学習ニーズの高度化を踏まえた社会教育経営についての理解を深める。				◎	
社会教育経営論2		講義	3	2	・社会教育に評価的思考を持ち込むことの意義と課題について概説する ・ステークホルダーの協働による学習環境の醸成について、具体例を通して考える。	・社会教育の評価に関する意義と課題について理解を深める。 ・社会教育の活動において協働が求められる背景と具体的な取り組みについて説明できる。				◎	
社会教育経営論3		講義	3	2	多様な主体の連携・協働を図りながら、地域住民の学習活動と地域社会の持続的発展とをつないでいくための知識や技能を身につける。社会教育行政と地域活性化、社会教育施設の事業と運営、学習成果の評価と活用、地域人材の育成、地域ネットワークの形成等を概説する。	・地域住民の学習活動の持続的な持続的に展開していくための条件や制度、仕組み、現状と課題を説明できるようになる。				◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会教育学)の学位を授与します。										
	①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する(意欲・態度) ②人間や社会に関わる現代的課題について理解をすすめ、社会の中の多様な学びに目を向けることができる(意欲・態度・思考) ③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている(知識) ④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる(知識・技術・行動) ⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる(創造・行動)										
科 目 名		授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
社会教育経営論4		講義	3	2	「社会教育経営論3」に引き続き、特に地域文化の創造・継承・発展において社会教育に求められる役割や課題について概説する。具体的な実践事例を紹介しながら、地域住民の文化芸術活動と地域社会の持続的発展とをつないでいくための知識や技能を身につける。	・社会教育経営論1の内容を敷衍しながら、地域文化の創造・継承・発展を支える社会教育に固有の役割と課題を説明できるようになる。				◎	
文化スポーツ支援論1		講義	3	2	生涯学習社会において、市民の文化活動・スポーツ活動は重要な役割を果たしている。本講義では、そうした文化・スポーツの活動について、基本的な知識を紹介し概説する。	・生涯学習社会における文化活動・スポーツ活動の役割について説明できるようになる。 ・今日の社会における文化活動・スポーツ活動について基本的な知識と背景を説明できるようになる。				◎	
文化スポーツ支援論2		講義	3	2	「文化スポーツ支援論1」に引き続いて、生涯学習社会における市民の文化活動・スポーツ活動について、それらを支える学習支援の観点から考察する。	・文化活動・スポーツ活動について、学習支援の役割について説明できるようになる。 ・今日の社会における文化活動・スポーツ活動の学習支援について基本的な知識と背景を説明できるようになる。				◎	
社会教育特講1[現代社会と社会教育]		講義	2・3・4	2	現代社会において社会教育がどのように営まれ、またどのようなものであるべきなのかを概説するとともに、現代の具体的な諸課題について社会教育の果たしうる役割を論じる。	・現代社会における社会教育のありかたについて、説明できるようになる。 ・現代社会のさまざまな課題に関連して社会教育の果たしうる役割を説明できるようになる。			◎		
社会教育特講2[シティズンシップと公共性]		講義	2・3・4	2	変化し続ける社会の中で人間らしく生きていくために、自分たちの未来を自分たちでつくる創造的な学びとその支援がますます重要となってくる。あらゆる人々が主体的に社会に参加・参画し、共に生きる社会をつくっていくために社会教育に求められる役割、その現状と課題を講述する。	・「学びの公共性」という視点に立て、これまでの社会教育の歴史的展開とこれからの課題を説明できるようになる。 ・よりよい社会をつくる民主主義的なプロセスにおいて社会教育に求められる役割と課題を考え、説明できるようになる。			◎		
社会教育特講3[文化政策と社会教育／文化資源とまちづくり]		講義	2・3・4	2	国や地方自治体が進める文化政策を企画推進し、文化の伝承・発展を企図しているが、地域住民が地域の文化遺産・資源を知り、自発的に伝承・発展をすすめるための、社会教育の役割について概観する。	・国や地方自治体が進める文化政策の根拠や仕組み、実態を説明することができる。 ・地域の文化遺産・資源を地域住民と共に確認し、伝承・発展するための企画・立案することができる。			◎		
社会教育特講4[地域生涯スポーツと社会教育]		講義	2・3・4	2	ひとびとが生涯スポーツに親しむばあい、その環境として、地域社会が重要な役割をおびることになる。本科目では、社会教育の観点から、地域社会とのかかわりにおいて生涯スポーツの現状と課題を概説する。	・地域社会で展開する生涯スポーツの現状の概要を説明できるようになる。 ・社会教育の観点から地域生涯スポーツの課題について説明できるようになる。			◎		
生涯学習特論1[文化芸術実践論]		講義	2・3・4	2	地域の多様な文化芸術実践をとりあげ、生涯学習という視点からその意義や価値を理解する。また、演出家やアーティストを迎えてワークショップ等の演習に取り組み、対話と表現を重視した学習支援、アートプロジェクトの組織的な展開にかかわる知識・技能を修得する。	・地域づくりや生涯学習のかかわりにおいて文化芸術実践の意義を説明できるようになる。 ・文化芸術実践に固有の学びの特性を理解し、それを学習支援の方法を説明できるようになる。			◎		
生涯学習特論2[ビジネスファシリテーションと生涯学習]		講義	2・3・4	2	ひとびとの集団の活動を促進するファシリテーションは、現在、さまざまな領域でその必要性が強調され始めている。本講義では、広義のビジネス場面あるいは社会生活において私たちが直面する課題を解決する技法としてのファシリテーションについて、生涯学習の観点から論じる。	・課題解決の技法としてのファシリテーションの基本的な視点と知識について、生涯学習の観点から説明できるようになる。 ・ビジネス場面あるいは社会生活においての実務的課題について、ファシリテーションの技法を取り入れることができるようになる。			◎		
生涯学習特論3[NPOとまちづくり]		講義	2・3・4	2	NPOが地域に根ざした活動を展開していく中で、そこにかかわる多くの当事者・参加者・スタッフの多様な学びの機会が生まれている。NPOの理念、制度や歴史、現状を概説した上で、特にまちづくりの実践に注目し、その中で生まれる学びの固有性を考察する。	・NPOの活動をめぐる基本的な知識を理解し、その意義、現状や課題を合わせて説明することができるようになる。 ・住民主体のまちづくり実践の意義やその支援のあり方について考え、生涯学習の観点から説明することができるようになる。			◎		
生涯学習特論4[地域社会と学校経営]		講義	2・3・4	2	「地域学校協働」をめぐる議論の経緯を概観し、実践の成果と課題について検討する	「地域と共にある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を両輪とする取り組みの中に見られる学びの姿に目が向けられるようになる。			◎		
生涯学習特論5[地域文化教育政策と法制度]		講義	2・3・4	2	地域文化教育政策に関わる法制度を理解した上で、地域における文化資源の活用と教育について、法体系からの視点と行政としての観点から、関係する法規も含めて概説する。	・地域文化教育政策に関わる法制度などの法的根拠を理解し、説明できる。 ・地域における文化資源の活用と教育にかかわる施策の現状と課題について理解し説明できる。			◎		
生涯学習特論6[プロジェクトマネジメント論]		講義	2・3・4	2	社会教育あるいは生涯学習支援において、プロジェクト型の活動を実施するためには、プロジェクトマネジメントの知識と技法を身につけておくことがのぞましい。本講義では、プロジェクト運営についての基本的な枠組から、具体的なプロジェクト運営に結びつく知識までを紹介する。	・プロジェクト管理の基本的な枠組について説明できるようになる。 ・具体的なマネジメント技法を、基本的な知識とともに説明できるようになる。			◎		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会教育学)の学位を授与します。 ①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する(意欲・態度) ②人間や社会に関わる現代的課題について理解をすすめ、社会の中の多様な学びに目を向けることができる(意欲・態度・思考) ③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている(知識) ④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる(知識・技術・行動) ⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる(創造・行動)										
科 目 名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
生涯学習特論7[知的財産管理論]		講義	2・3・4	2	知識基盤社会において、技術だけでなくコンテンツやデザイン、ブランドなどの知的財産を適切に活用し、社会に活かすために、知的財産マネジメントがより重要になっている。知的財産を管理するためのスキルについて概観し、知的財産管理スキルを高める。	・知的財産について、対象や法令について説明ができる。 ・知的財産を管理するための理論と実務的な運用ができる。			◎		
生涯学習特論8[CTと社会教育]		講義	2・3・4	2	情報通信社会の急速な進展や新型コロナ感染症対応をきっかけに、生涯学習・社会教育においても対面・集合形式の学習活動を補うICT活用の促進が課題となっている。人間社会とテクノロジーの関係性を考察しながら、これからの生涯学習と地域づくりを支えるICT活用の知識と技能を身につける。	・生涯学習・社会教育におけるICT活用の動向を踏まえ、その可能性と課題について説明することができるようになる。 ・ICTの効果的な活用という面から、既存の地域事業の支援や新規事業のアイデアを提案できるようになる。			◎		
図書館情報学概論		講義	1・2・3・4	2	図書館および図書館情報学の概要を学ぶとともに、図書館の歴史と現状、他の社会教育機関との連携等に関する基礎的知識を理解し、図書館の社会的役割の重要性を認識し、専門性の基礎となる能力と態度を養う。	・図書館および図書館情報学に関する基礎的知識を得ることで、この領域に興味をもつ。 ・図書館の社会的役割の重要性を認識し、専門性の基礎となる能力と態度を養う。		◎			
図書館サービス概論		講義	1・2・3・4	2	情報活用能力が必要とされる高度情報化社会において、その地域の情報拠点である図書館は利用者のニーズに応じて必要な資料や情報を提供するサービス、いわゆる図書館サービスを行っている。中でも公共図書館は社会教育施設として利用者にとって最も身近な存在であり、生涯を通じて利用できる施設である。公共図書館サービスの役割と意義、機能など基本的な考え方を把握した上で、各種サービスについて、目的や意義などを概観する。	知識基盤社会において、地域の情報拠点である図書館のもつ意義、機能が説明できる。生涯にわたり課題解決の拠点となる公共図書館の果たす役割・図書館システム等がわかり、図書館をより有用な社会教育施設として運用できる。			◎		
図書館マネジメント論		講義	2・3・4	2	本科目では、図書館及び図書館サービスに関する法制度を理解した上で、図書館になぜ経営の視点が必要であるかを考える。社会的機関である図書館を運営上認知しなければならない法制度、関連法規について、法体系からの視点と行政機関としての視点から、関係する法規も含めて解説する。制度を前提に、図書館組織を運営していく上での現状と課題について説明するとともに、その知識をもとに、近年の感染症への対応やデジタル化、危機対応などの個別具体的な課題について議論し、実践的な問題解決能力を修得する。	・図書館及び図書館サービスに関わる法制度などの法的根拠を理解し、説明できる。 ・図書館経営上の現状と課題について理解し、これからの社会環境をもとに考察し説明できる。 ・個別の図書館が置かれた環境に応じて、図書館サービスや運営方針等を立案するなど図書館運営について説明できる。			◎		
図書館情報学基礎特論		講義	2・3・4	2	地域の情報拠点である公立図書館の役割について理解を深めるために、「地域資料」に焦点を当てる。「郷土資料、地方行政資料」を、この授業ではまとめて「地域資料」として扱い、その実態を確認しつつ、これを公立図書館で収集・保存しサービスする上での意義・現状・課題について概観する。	・「地域資料」と呼ばれる多様な資料・情報について、その具体例を理解する。また、地域資料を収集・保存する図書館や、文書館・博物館などの関係機関の役割を理解する。 ・また、自分の身近な地域(市町村)の公式ウェブサイトを検査することで、その地域の特色や、情報発信の現状、またその利点・欠点を理解する。 ・これらの点を踏まえ、「地域のことを知る」意義や課題について、履修者自身にとって身近な地域に引きつけて理解する。			◎		
図書館とメディアの歴史		講義	2・3・4	2	日本の歴史的な文化資源である日本古典籍資料について、地域における受容過程も含めてその特徴について概観する。また、地域の情報拠点である公共図書館にも日本古典籍資料や文化資産があり、それらを活用するための業務の大まかな全体像について理解する。	・典籍や文書を中心とした各種の記録メディアの発展の歴史と情報伝達や情報受容に関する特性を説明することができる。 ・記録メディアを収集し、地域の情報拠点である図書館の発展の歴史として、起源から現在のような民主的な図書館にいたる経緯を説明することができる。			◎		
文化政策学概論		講義	2・3・4	2	地域の文化行政および社会教育に携わる能力の基礎として、本科目では、文化政策について専門的に考えるための基本的な知識と考え方を概説する。	・文化政策の基本的な知識を理解し説明することができる。 ・地域における文化行政や社会教育と文化政策の視点を結び付けて説明することができる。		◎			
地域産業論		講義	3・4	2	奈良県内には長年地域社会の中で培われてきた伝統的産業があり、他方近代以降に新たに興された産業もある。奈良県という地域と産業との結びつきは時代と共に変化しているが、ICTの進展による産業の在り方と情報やものの流通という外的要因の影響も考慮しながら、地域産業の在り方とまちづくりの視点から地域と産業の関わりや地域の取組について考える。本科目は寄付講座として、地域産業界の協力を得て地域と産業のについて直接学ぶ。	・地域社会にある新旧の産業の実態と変化を説明できる。 ・地域産業のありかたを学習や文化の視点から捉え自分の考えを述べることができる。			◎		
地域金融論		講義	3・4	2	地域金融機関は、地域経済と地域中小企業の担い手として社会的に大きな責任を果たしている。地方共創の視点から、地域から期待される地域金融機関の役割と地域における地域金融機関の存在意義について理解するとともに、金融の基本的なことから今後の地域経済の発展にとって、いかなる金融の役割が求められているかを考える。本科目は寄付講座として、地域金融界の協力を得て地域共創と地域経済産業について直接学ぶ。	・地域社会の実態を経済と金融という視点から理解し説明できる。 ・地域金融のありかたを共創の視点からとらえ自分の考えを述べることができる。				◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会教育学)の学位を授与します。 ①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する(意欲・態度) ②人間や社会に関わる現代的課題について理解をすすめ、社会の中の多様な学びに目を向けることができる(意欲・態度・思考) ③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている(知識) ④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる(知識・技術・行動) ⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる(創造・行動)										
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
広報・PR論	講義	3・4	2	現代のメディア環境は誰もが情報の発信者となりうる。地域共創を進める上で地域社会とのよりよい関係性を構築し維持すること(パブリック・リレーションズ)しなければ活動が成り立たない。さまざまな広報媒体の特性やリスクなど、広報・PR活動についての基本的な知識やスキルの修得と理解を目指す。本科目は寄付講座として、広告業界の協力を得て地域共創を想定し、効果的で倫理的な戦略的コミュニケーションのあり方について直接学ぶ。	・現代的なメディア環境と地域の関係性をふまえた広報・PRの役割を理解し説明できる。 ・さまざまな広報媒体の特性について基本的な知識を持ち、地域共創における広報戦略を自分なりに考えることができる。					◎	
臨地文化施設実習	実習	1	1	社会教育を専門的に学ぶための導入の一環として、地域にあるさまざまな社会教育施設・文化施設にアクセスし、実地に経験する。担当教員の指導の下に、「社会教育基礎演習2」と連動しながら、社会教育実践の現場に参加し、そこでの経験について、振り返りや意味づけをおこなう。	・地域にあるさまざまな社会教育・文化施設にあらためて目を向け、実地に触れる経験をもとに、それらの特徴を説明できるようになる。 ・さまざまな場でいとなまれている活動に触れながら、自分の関心につながる糸口を見つけ、自分のことばで語るができるようになる。	◎					
野外教育実習	実習	1・2・3・4	1	社会教育・生涯学習の領域では自然の中での体験活動の振興が重要なテーマのひとつとなっていることを踏まえ、その支援にあたる野外活動に関する基礎を実践的に理解する。	・野外教育にかかわる専門的、実践的知識・技能を習得し、説明できるようになる。 ・自然の中での体験活動を学習プログラムとして企画できるようになる。					◎	
プロジェクト実習1	実習	1・2・3・4	1	社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間(45時間)以上の実習を行う。	・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。 ・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。					◎	
プロジェクト実習2	実習	1・2・3・4	1	「プロジェクト実習1」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間(45時間)以上の実習を行う。	・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。 ・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。 ・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。					◎	
プロジェクト実習3	実習	1・2・3・4	1	「プロジェクト実習2」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間(45時間)以上の実習を行う。	・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。 ・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。 ・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。					◎	
プロジェクト実習4	実習	1・2・3・4	1	「プロジェクト実習3」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間(45時間)以上の実習を行う。	・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。 ・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。 ・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。					◎	
プロジェクト実習5	実習	1・2・3・4	1	「プロジェクト実習4」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間(45時間)以上の実習を行う。	・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。 ・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。 ・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。					◎	
プロジェクト実習6	実習	1・2・3・4	1	「プロジェクト実習5」を履修したうえでさらに、社会教育に関わるプロジェクトに学習支援者として参与し、社会教育・生涯学習支援について実践的な知識を得る。授業担当教員および当該施設等の職員の指導のもとに一定時間(45時間)以上の実習を行う。	・地域社会の中で学習支援の実際を経験し、参与者としての役割を果たすことができるようになる。 ・プロジェクトに参与する経験を、振り返りを通じて言語的に説明することができるようになる。 ・プロジェクトのなかで、より新規の参与者に対して指導的にかかわることができるようになる。					◎	
地域協働実習	実習	2・3・4	1	社会教育・生涯学習の領域において、地域との協働が重要なテーマの一つとなっていることを踏まえ、大学はじめ複数の主体が協働している事業での実習を通じて地域協働の基本を実践的に理解する。	・地域協働についての基本的な知識を修得し、説明できるようになる。 ・実習を通じて、協働活動のなかでおこる課題を発見し、ふりかえりのなかで一定の知見を持つことができるようになる。					◎	
社会教育実習1	実習	3	2	社会教育の現場に出て、社会教育職員としてのインターンシップ活動に臨む。仕事の中で、実際の地域社会における社会教育の意義や課題についても経験的に考えていく。	・現場の仕事内容や心得について理解し、実習を通じて社会教育士としてのマインドを育む ・現場の状況と大学で学ぶ知識を結び付けて考えられるようになる。					◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会教育学)の学位を授与します。 ①自ら生涯にわたって学び続ける意欲と態度を涵養する(意欲・態度) ②人間や社会に関わる現代的課題について理解をすすめ、社会の中の多様な学びに目を向けることができる(意欲・態度・思考) ③生涯学習社会の形成に資する社会教育の知識を身につけている(知識) ④社会教育の専門性をもった職業能力を身につけ、社会教育主事、社会教育士、その他の学習支援者として活躍できるようになる(知識・技術・行動) ⑤「教育・学習・文化・社会」の観点から、よりよい社会を実現する具体的な方策を探究できる(創造・行動)										
	科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
社会教育実習2	実習	3	2	社会教育士として活動するために必要な資質及び能力の総合的な定着を図ることを目的として、地域の文化芸術にかかわる行政・施設・団体において現場実習に取り組む。さらに、その経験の意味を振り返って表現することで、地域における社会教育及び文化芸術活動の意義や課題について理解を深める。	・地域や施設等の状況を調査・把握し、社会教育の制度や仕組みへの理解を深める。 ・社会教育現場での学習支援を実践し、そこで求められる知識・技能についても説明できるようになる。 ・自らの学びの経験を振り返って言語化し、記録やプレゼンテーションを通じて広く共有することができるようになる。					◎	
社会教育演習1(コーディネーター支援)	演習	3	2	コーディネーターをはじめとした社会教育における学習支援に関わる役割について確認し、学習支援者が直面する課題を整理する。そのうえで、学習支援者の活動をサポートできる方策について受講生が主体的に検討する。	・学習支援者の役割と課題について理解を深める。 ・個々の実践を俯瞰して、学習支援者が活動しやすい環境や仕組みづくりを考えるための問いが立てられるようになる。					◎	
社会教育演習2(コーディネーター支援)	演習	3	2	個人、またはグループで、学習支援者の活動をめぐる問いをもとに研究テーマを設定し、必要に応じて社会調査を行いながら、自分なりの結論を発表する	・コーディネーター／学習支援者の抱える課題に目が向くようになる。 ・関連するテーマの探究活動を通して、コーディネーター等の支援を今後考えていくポイントについて自分なりにつかむことができる。					◎	
社会教育演習1(文化行政)	演習	3	2	社会教育を専門領域として探究するために必要となる知識と技術を得得する演習科目。本演習では特に、文化行政の領域を中心として演習を行う。	・特に文化行政について、社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、統計データ等の読解を、具体的な支援のアクションに結び付けて説明できるようになる。					◎	
社会教育演習2(地域文化共創)	演習	3	2	社会教育を専門領域として探究するために必要となる知識と技術を得得する演習科目。本演習では特に、地域文化の創造という視点を中心として演習を行う。	・特に地域文化の創造について、社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、統計データ等の読解を、具体的な支援のアクションに結び付けて説明できるようになる。 ・身につけた専門的知識・技術を、みずからの関心に引き寄せてひとつの研究課題として説明できるようになる。					◎	
社会教育演習1(文化スポーツ支援)	演習	3	2	社会教育を専門領域として探究するために必要となる知識と技術を得得する演習科目。本演習では特に、文化およびスポーツ活動の領域を中心として演習を行う。	・特に文化およびスポーツ活動について、社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、統計データ等の読解を、具体的な支援のアクションに結び付けて説明できるようになる。					◎	
社会教育演習2(文化スポーツ支援)	演習	3	2	「社会教育演習1(文化スポーツ支援)」に引き続いて、社会教育とくに文化およびスポーツ活動の領域を中心として専門的に探究するために必要となる知識と技術を得得する演習科目。また、その知識・技術をみずからの関心に引き寄せ、次年度の卒業研究に結びつける準備をおこなう。	・特に文化およびスポーツ活動について、社会教育を専門的に探究するための専門的文献や資料を適切に読解・活用できるようになる。 ・専門的文献や資料、統計データ等の読解を、具体的な支援のアクションに結び付けて説明できるようになる。 ・身につけた専門的知識・技術を、みずからの関心に引き寄せてひとつの研究課題として説明できるようになる。					◎	
社会教育課題研究1	演習	4	2	社会教育の領域において、みずからの問題意識に沿って研究課題を設定し、その課題について研究を進める演習科目である。具体的には、本演習を卒業論文あるいは卒業課題研究の作成に結びつける。	・社会教育の領域で自らの問題意識を育てることができる。 ・自らの問題意識に沿って研究を組織し卒業論文あるいは卒業課題研究の作成に結びつけることができる。					◎	
社会教育課題研究2	演習	4	2	「社会教育課題研究1」につづき、社会教育の領域において、みずからの問題意識に沿って研究課題を設定し、その課題について研究を進める演習科目である。具体的には、本演習を卒業論文あるいは卒業課題研究の完成に結びつける。	・社会教育の領域で自らの問題意識を育てることができる。 ・自らの問題意識に沿って研究を組織し卒業論文あるいは卒業課題研究の完成に結びつけることができる。					◎	
卒業課題研究		4	4	4年間の学修の集大成である。関心のある対象・テーマに関して、研究を進めたうえで、それをもとに論文という形式をとらない制作物を作成し、プレゼンテーションを行う能力を養成する。	・テーマに関する体系的な情報収集および経験的研究ができる。 ・収集された情報を踏まえたうえでみずからの研究から独自の意見を形成できる。 ・研究の成果を論文の形式をとらない制作物として表現しプレゼンテーションできる。					◎	
卒業論文		4	6	4年間の学修の集大成である。関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な論文を作成する能力を養成する。	・先行研究に関する文献調査ができる。 ・テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。 ・独自の意見を形成できる。 ・意見を論文のルールにしたがって表現できる。					◎	